



Sodick

Sodick Times

2024年12月期(第49期)中間報告書

2024年1月1日～2024年6月30日

Special
Feature

トップインタビュー

株式会社 ソディック

東証プライム：6143

取締役 兼 COO
(最高執行責任者)
副社長執行役員
坏 祐次

代表取締役 兼 CEO
(最高経営責任者)
社長執行役員
古川 健一

全社一丸となって構造改革を実現し、 さらなる飛躍のための成長基盤の確立をめざします

ソディックはいま、会社全体の構造改革を含めた中期経営計画を推進しています。

さらなる飛躍をめざす長期ビジョンを見据えた成長基盤の確立へ、社長・古川と今年3月副社長に就任した坏が中期経営計画に対する約半年間の進捗状況と手ごたえについてお話しします。

Q. 上半期の状況について教えてください

2024年12月期上半期は、構造改革を大きく進めるための土台づくりが進展

古川 現在、今年2月に公表した新中期経営計画の完遂に向けて、構造改革を推し進めています。坏副社長は、当社グループ米国販売会社で長くトップとして組織を牽引してきた実績を持ち、グローバルビジネスに加えて「ソリューション事業」「アフターサービス事業」「DX推進」などに幅広い知見を有していますので、それらの事業拡大を推進してもらっています。

坏 2024年12月期第2四半期は、構造改革の方針に沿って中国での生産体制の再構築、欧米市場での事業基盤の強化、インド、メキシコといった新興国での事業展開などに取り組みました。業績回復に向けての土台づくりを着々と進めているので、今後の業績及び収益向上への寄与をめざします。

古川 構造改革の要点は「中国依存脱却」、「選択と集中」、「生産・販売体制の再構築」、「バランスシート改善」です。中国の生産拠点は、これまで蘇州、厦門工場の2か所でしたが、厦門工場へ集約し、移転後の蘇州工場は主にテクニカルセンター兼サービス拠点とします。販売後のメンテナンスやアフターサービスはもちろん、ショールームを刷新し、自動化ソリューションを取り入れた最新モデルのラインアップを充実させて、購入をご検討いただいているユーザーを取り込みたいと考えています。同時に、今後の成長が見込めるインド、メキシコ等での販売体制構築を進めています。

坪 今期は、自動車産業の設備投資が停滞気味な一方、航空宇宙、医療、半導体といった分野は比較的堅調であり、これらの産業の需要増に柔軟に対応します。さらにお客様の多くで、製造現場の省人化・生産性向上という課題が顕在化しています。当社の工作機械の活用により、いかにお客様の生産性の向上を実現するか等のソリューション提供を、当社の強みとして打ち出していきたいと考えています。

古川 当第2四半期の業績につきましては、構造改革を着実に実施し、販管費の削減が進んだことにより、売上高は335億円、営業損失は0.5億円、円安進行による為替差益の発生により経常利益は15億円、当期純利益は8億円まで回復しました。期初に公表した通期業績予想より円安進行による為替差益等が発生したため、通期予想値を上方修正いたしました。今後も株主の皆様のご期待に応える業績と収益性の改善に取り組んでまいります。

(単位:億円)

	第2四半期 累計(実績)	2024年12月期 通期業績予想		増減率 (期初計画比)
		期初計画	修正計画	
売上高	335	722	725	0.4%
営業利益	△0.5	11	11	—
経常利益	15	11	16	45.5%
当期純利益	8	7	9	28.6%

■ 構造改革 基本方針

目 的

当社グループを取り巻く事業環境の著しい変化により収益力が大きく低下しており、ビジネスモデルの変革による収益構造及び経営体制の抜本的改革を図る

基本方針

1 中国依存脱却

中国の2工場の生産を1工場に集約したうえで日本国内製造の組織再編及び生産品目の拡充

2 選択と集中

市場動向、競合環境等を踏まえた事業・製品の再編成により収益性を改善

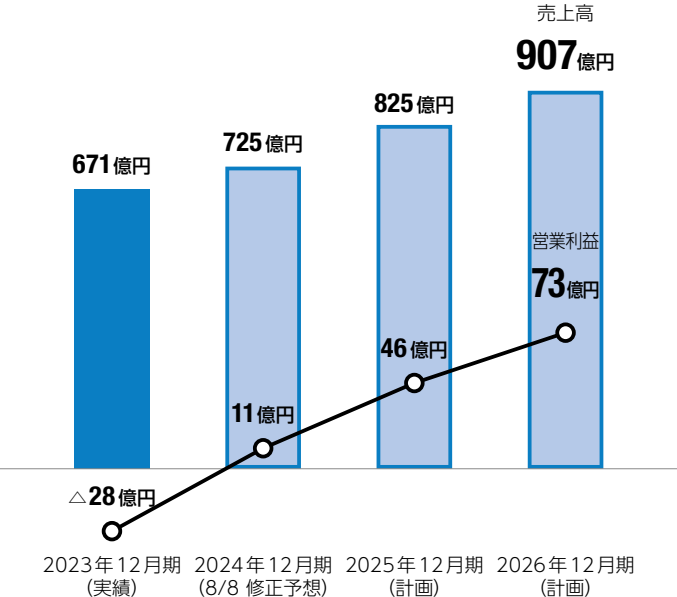
3 生産・販売体制の再構築

円安や需要の変化に応じた生産、販売体制をグローバルで再構築

4 バランスシート改善

キャッシュコンバージョンサイクルの改善や長期滞留在庫の圧縮、非効率な固定資産の圧縮等によるキャッシュフローの改善

■ 新中期経営計画における業績目標



Q. 各事業の状況について教えてください

主力の工作機械事業の再構築・強化を柱としてさらに産業・食品機械事業の強化・成長を促進

古川 工作機械事業では日本・タイ・中国の3地域生産体制とする構造改革を進めていますが、主力製品の形彫り放電加工機ALシリーズに関しては、国内で生産する体制を整えました。今期の目標として損益分岐点を超える生産台数を継続して量産できるよう人員の配置及びサプライチェーンの構築も含めた体制強化を着実に進めています。

环 昨今の中国市場での需要減、円安進行といった急激な事業環境の変化に対応するため、高付加価値製品の受容力の高い欧米地域等への販売拡大を考えていきます。

古川 産業機械事業ではより収益性の高い製品の販売へのシフトをめざしています。主力の射出成形機はこれまでの自動車産業向けに加え、現在は、データセンター向け光コネクタ関係で大型受注を獲得するなど、当社の高性能な機

械の強みが生きる分野での需要が高まっています。さらに人手不足への対応ニーズを踏まえた自動化ソリューションを提供しています。

食品機械事業については、工作機械、産業機械に続く当社の第三の事業と位置づけ、生産体制の強化とアジア・米国を主とした事業拡大に取り組んでいます。製麺装置、無菌包装米飯製造システムを主力としていますが、近年の海外での麺製品やパックご飯の需要拡大に合わせ、海外での販売を強化し、これらの需要を確実に取り込みたいと思います。また、製麺装置、無菌包装米飯製造システム以外の分野へも進出し、当社を支える安定事業へ成長させていきたいと考えています。

Q. 工作機械事業の成長戦略の取り組みと進捗について教えてください

継続的な成長をめざし、ビジネスモデルの進化、戦略投資、イノベーションへの取り組みを推進

环 成長戦略の取り組みのひとつが、米国を中心に注力しているソリューションビジネスです。当社の工作機械・産業機械に他のハードウェア、ソフトウェア、ソリューション、メンテナンスサポート等を組み合わせてお客様に提供しています。米国のグループ会社においては、ソリューション専門エンジニアチームを結成し、対応しています。大変な労力を要しますが、お客様は、当社からの付加価値

ある提案によってさらなる生産性向上を期待していますし、アフターサービスも充実させることで良好な関係を構築、継続しています。ものづくり人材の不足やDXが進むなか、今後ますます需要が高まると見込んでおり、お客様の課題解決に役立つソリューションの創出と提案力の強化を図っていきます。またこのビジネスモデルで日本国内を含めてグローバルに展開することをめざしています。

古川 これまでの中小金型メーカー中心のビジネスに加えて大手メーカーの高度な要求、金型の複雑化・超精密化、航空宇宙産業での高精度な加工技術等の要請にも応えられるように、当社工作機械・産業機械の高度化とラインアップの拡充を進めています。アプリケーションの対応力を高め、例えば、今後は当社の細穴加工機等の特殊用途機



がお客様に求められる機会が増加すると期待しています。

また、欧米中心に製造業の現場で金属3Dプリンタの活用が広がってきています。将来の欧州地域を中心とした事業拡大を視野に入れ、今年4月にイタリアの金属3Dプリンタ

メーカーのPrima Additive社への出資と業務提携を開始しました。さらにレーザ加工機についても10年以上にわたって研究開発に取り組んだ成果が出始めており、今後お客様へ提供できるよう準備を着実に進めております。

Q. 社内組織風土改革の状況について教えてください

質の高いコミュニケーションの浸透で、働きやすい職場環境づくりを推進。企業風土・文化の革新への手ごたえ

坪 社内体制や企業・文化の革新にも注力し、社内組織風土改革も加速させています。組織のタテ・ヨコにかかわらずコミュニケーションを高めて意識改革につなげていく取り組みを進めています。5月には、直接加賀事業所に足を運び、現地の従業員と意見交換をするラウンドテーブルミーティングに参加しました。ポジティブな姿勢で年代、性別、立場の垣根を越えて課題解決に向けた対話を行うことで、私たち経営陣と従業員とのコミュニケーションギャップを解消し、相互理解に取り組んでいます。

古川 私たち経営陣が求める、経営層と従業員間の率直なコミュニケーションの実現に向けて、経営陣と若手をつなぐ立場にある中間マネジメント層を起点とする意識改革と行動変革が重要だと認識しています。コーポレートガバナンス強化のひとつとして、従業員満足度調査の結果を役員報酬と連動させる制度も導入しました。トップマネジメント

だけではなく、中間マネジメント層、さらには従業員全員を巻き込み、ともに企業変革を進めていきます。経営陣は単にメッセージを発信するだけではなく、組織の中へ入り、積極的に対話をしていくことで従業員とのギャップを埋め、さらなる企業変革を推進できると考えています。

坪 グループ全体で約3,500人が在籍し、その内約6割が海外の大きな組織ですから、部門ごと、チームごとのリーダーシップが非常に大切です。その意味で、私たち経営陣と若い世代との中間にあたる世代が自立して、プロジェクトごと、チームごとに業務を進めることで組織全体のコミュニケーションの質を高められるよう推進していきます。



▲ ラウンドテーブルミーティングの様子

Q. 最後に株主の皆様へメッセージをお願いします

これからも安定的な配当をめざします

古川 株主の皆様への還元につきましては、株主資本を基準としたDOE（株主資本配当率）2.0%以上の方針のもと今後も安定的な配当を継続していく予定です。PBRが1倍を下回る水準が継続していますが、新中期経営計画における構造改革を着実に進めることで収益性を高め、業績を回復していくことでPBRの早期回復を実現してまいります。株主の皆様には、今後も一層のご理解と当社へのご支援を賜りますようお願いいたします。



新
サービス

工作機械のサブスクリプションサービス 「サブスクTRY」を開始

「サブスクTRY」は、設備導入費の抑制や、機械を検討する際に試用したいなどのさまざまなお客様のニーズにお応えし、月額でワイヤ放電加工機を利用できるサービスです。

契約期間中はアフターメンテナンスや盗難・災害発生時の動産総合保険も付与されます。これまで、国内の機械購入方法は、大きく分けて現金購入またはリース(7年)の2通りでしたが短期間での工作機械の利用が可能になり、お客様に関心を持っていただけるなど商談につながる糸口となっています。現在、対象となる機械は、医療・航空宇宙分野の高精度部品加工、金型加工に対応したリニアモータ駆動ワイヤ放電加工機「VN400Q」「VN600Q」の2機種ですが、日本のものづくり支援とサービス向上に向けて、ラインアップの拡大を図っていく予定です。

特長

1. 初期費用が不要
2. 短期間での工作機械の使用が可能
3. 月々の料金が定額
4. 消耗品交換も含めた
アフターメンテナンスプラン
5. 動産総合保険を付帯

新製品

進化したハイブリッド 堅型単動式 射出成形機 「VT G シリーズ」の小型機種発売

「VT20G / VT50G / VT75G」の3モデルは、ハイブリッド 堅型単動式 射出成形機「EHV シリーズ」の後継となる「VT G シリーズ」の小型機種です。2024年4月に施行された国際安全規格ISO20430 (JIS B 6711) 準拠に加えて、お客様のニーズである、より大きな金型搭載(他社機比)、設置の省スペース化、ハイサイクル対応としてテーブル回転時間短縮などに対応した次世代の射出成形機です。従来の「EHVシリーズ」の高速かつ正確な位置制御を継承するとともに、新コントローラ搭載や新操作画面の採用により制御能力がさらに向上しました。今後お客様のさらなる高付加価値製品の追求に貢献できるよう、製品の開発を続けてまいります。



▲ 射出成形機 VT G シリーズ「VT50G」

従来の肉様PBFの課題を解決

新開発

新世代肉様PBF（プラントベースフード）
「フラカルネ」を開発

新世代肉様食材PBF「フラカルネ」は、特殊加熱装置による一体大型成形で、小麦からタンパク質だけを抽出した原料で、まるで本物の肉のような弾力とジューシーさを実現した商品です。

植物由来の代替肉は、昨今の世界人口の増加や畜産に伴う環境負荷の増大、温室効果ガス削減の観点からも注目されています。そこで、当社食品機械事業部では、これまで培った小麦の原料特性についてのノウハウや応用技術を生かすことができると考え、開発に至りました。従来品では難しかったとんかつ、酢豚、焼肉など幅広いレシピに適応が可能です。今後は、国内の飲食業者様、食品加工業者様への販路拡大に加えて、PBFで先行している欧州や北米市場をターゲットに、植物由来の素材として輸出展開も予定しています。

※ PBF (Plant Based Food) : 動物性原材料ではない植物由来の原材料を使用した食品の総称

フラカルネ



Sodick News

ソディックの今がわかる、旬な情報をお届けします

世界最大級の食品製造総合展「FOOMA JAPAN 2024」に出展



当社は東京ビッグサイトで開催された世界最大級の食品製造総合展「FOOMA JAPAN 2024」に出展いたしました。新開発の新世代肉様PBF「フラカルネ」を展示するなど、食品機械のみ

ならず食品そのものの初披露となった本展示会では、期間中多くのお客様に興味を持っていただくことができ、大変有意義な機会となりました。

「FOOMA JAPAN 2024」概要

会 期 2024年6月4日～6月7日

来場者数 11万3,777人

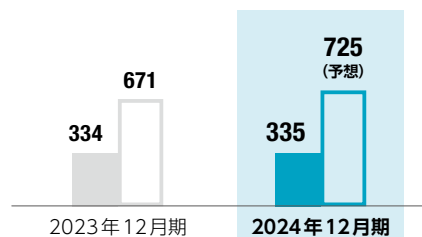
出 展 品 肉様PBF「フラカルネ」、共同出展装置「食品向け水分率モニタ」、麺・パン・菓子の生地成形機、連動式真空冷却装置、上向きトレイ脱パン装置



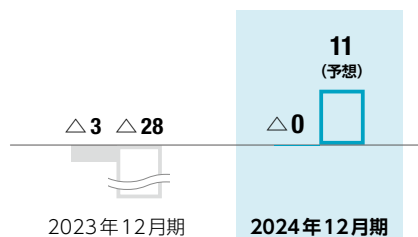
連結損益計算書の概要 (単位: 億円)

■ 第2四半期累計 □ 通期

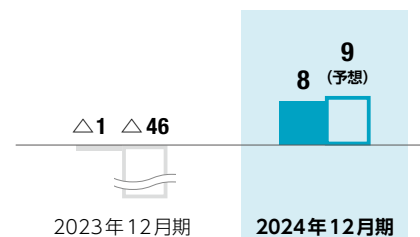
● 売上高



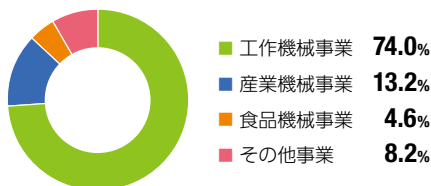
● 営業利益



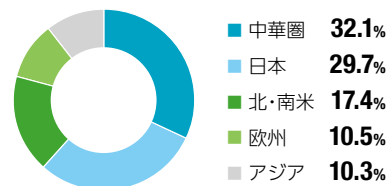
● 親会社株主に帰属する当期純利益



セグメント別売上高構成比 (2024年12月期第2四半期累計)

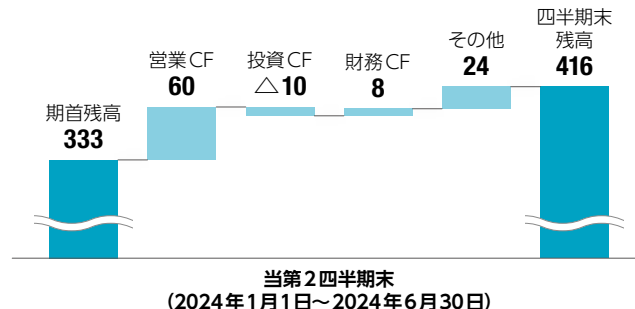
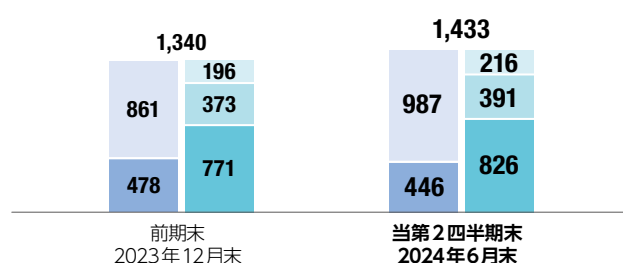


地域別売上高構成比 (2024年12月期第2四半期累計)



連結貸借対照表の概要 / 連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要 (単位: 億円)

■ 流動資産 ■ 固定資産 ■ その他負債 ■ 有利子負債 ■ 純資産



IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など詳しい決算情報をご覧になれます

https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html

ソディックIR

検索



業績ポイント解説

Q 上方修正の要因は？

A 2024年12月期通期連結業績予想につきまして、売上高725億円（期初計画比3億円増）経常利益16億円（同5億円増）当期純利益9億円（同2億円増）へ上方修正いたしました。その要因として、売上高については、想定していた為替レートより円安傾向で進捗していることによる押し上げ効果等、経常利益及び当期純利益については、円安進行による為替差益の発生等によるものです。なお、営業利益は、売上原価及び固定費の低減による効果が一部寄与するものの、主に工作機械の販売台数減少による工場収益性の低下を見込み、期初計画を据え置いております。

※上記の修正予想の前提となる下期の主な為替レートは、1ドル145円、1ユーロ158円を想定しております。

Q 営業利益改善の要因は？

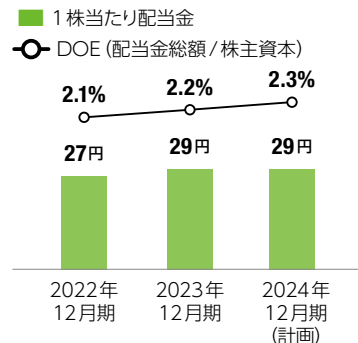
A 2024年12月期第2四半期の営業利益は、5四半期ぶりに黒字回復いたしました。その要因は、主力の工作機械事業で当期の総販売台数が増加したことに加えて、構造改革の推進により売上原価及び固定費の削減が進捗したことによるものです。売上総利益は、前四半期比で約16億円増加（売上総利益率5.1ポイント改善）となりました。中国の生産体制集約による製造原価削減も進展しており、新興国インドでも販売台数が増加しておりますので、引き続き販管費の増加を適切な範囲に抑えつつ、事業計画の達成をめざします。

株主還元方針

当社では、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針として、DOE（株主資本配当率）2.0%以上を目標にしています。また、業績連動を加味した、より機動的な還元政策を実施すべく、総還元性向^{*}40%以上も併せてめざしております。

2024年12月期の中間配当は1株につき14円といたしました。期末配当は15円、年間配当は29円を計画しています。厳しい事業環境の中においても持続的な成長と株主の皆様への適切な利益還元のため、安定配当を実施してまいります。

※総還元性向とは、親会社株主に帰属する当期純利益に対する配当額と自己株式取得の合計額の比率を表します。



Sodick New Eco Solution

「持続可能な社会」の実現に貢献するために

近年、経営に影響を与える要因として「原材料費高騰」と同様に注目されているのが「電力料金高騰」であり、「ものづくり」に欠かせない工作機械の消費電力削減は企業の規模を問わず重要な経営課題となっています。このような需要の高まりから、当社では「省エネ」製品の開発に注力しています。

ワイヤ 放電加工機

- 省エネポンプシステムで消費電力20%削減
- 高板厚ワーク仕上げ加工でのワイヤ消費量最大30%削減
- 使用環境にオールマイティ対応

※当社従来機比

リニアモータ駆動
高速・高性能 ワイヤ放電加工機

AL600G "i Groove + Edition"



形彫り 放電加工機

- 省エネポンプシステムで消費電力30%削減
- 熱変位量50%低減を実現する精密熱変位補正機能を標準搭載
- 加工時間を21%削減

※当社従来機比

リニアモータ駆動
高速・高性能 精密
形彫り放電加工機

AL40G+



金属 3Dプリンタ

- 大型金型部品を安定造形
- MRS※で1台の金属3Dプリンタ設備で複数種類の金属粉末材料に対応可能
- 造形モニタリング機能による予知保全で稼働率向上

※カートリッジ式MRS (Material Recycle System)

※当社従来機比

高速造形
大型金属3Dプリンタ

LPM450



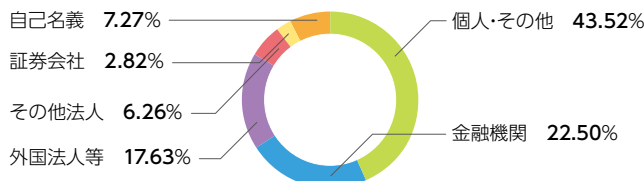
Sodick New Eco Solution
詳細はこちらから



株式情報

発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式総数	54,792,239 株
株主数	17,513 名

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
株主確定日	● 定時株主総会、期末配当金:12月31日 ● 中間配当金:6月30日
定時株主総会	毎年3月
公告の方法	電子公告により行う
(公告掲載URL)	https://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,324,300	11.54
株式会社ソディック	3,981,730	7.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,003,100	3.66
森田 清	1,190,070	2.17
ソディック共栄持株会	961,900	1.76
有限会社ティ・エフ	895,000	1.63
ソディック従業員持株会	880,721	1.61
株式会社三井住友銀行	850,000	1.55
古川 健一	839,901	1.53
古川 宏子	800,000	1.46

株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
おおよび特別口座の 口座管理機関	
郵便物の送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-782-031 (通話料無料)
電話お問合せ先	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
ホームページアドレス	東京証券取引所 プライム市場 証券コード:6143
上場証券取引所	

TOPICS ご案内

「統合レポート2023」発行のご案内

ステークホルダーの皆様にはソディックグループの持続的な企業価値向上に向けた取り組みについてわかりやすくご理解いただくために「統合レポート2023」を発行しました。当社のめざす姿や経営目標などを掲載しているほか、現在注力している経営基盤と収益構造の改革や競争優位性の向上を果たすための施策や経営陣の考えを説明しております。ステークホルダーの皆様からのご意見をいただき、さらなる企業価値向上をめざしていきます。ぜひご覧ください。



▲ 詳しくはコチラ



会社情報 (2024年6月30日現在)

会社名 株式会社ソディック
所在地 本社
〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL:045-942-3111(代表)
設立 1976年8月3日

資本金 246億18百万円
代表者 古川 健一
従業員数 1,192人(連結3,487人)
連結子会社 19社
持分法適用の関連会社 1社

役員

代表取締役 兼 CEO 社長執行役員
取締役 兼 COO 副社長執行役員
取締役 兼 CTO/CPMO 専務執行役員
取締役 兼 CFO 常務執行役員
社外取締役
社外取締役
社外取締役

ふるかわ けんいち
古川 健一
あくつ ゆうじ
坪 祐次
つかもと ひでき
塚本 英樹
まえじま ひろふみ
前島 裕史
くどう かずなお
工藤 和直※
のなみ けんぞう
野波 健蔵※
ごとう よしかず
後藤 芳一※

社外取締役
社外取締役
常勤監査役
常勤監査役
社外監査役
社外監査役

ごうはら けんいち
郷原 玄哉※
さの あやこ
佐野 綾子※
かわもと ともひで
河本 朋英
かわはら てつろう
河原 哲郎
おおたき まり
大滝 真理※
おおむら ゆきこ
大村 由紀子※

※東京証券取引所の定める独立役員であります。



株主・投資家様向けの情報を
開示しています。ぜひご覧ください。

<https://www.sodick.co.jp/ir/>

コーポレートサイト



IRサイト



株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL:045-942-3111